

第4回 蕨市立病院整備検討審議会 令和6年5月29日



これまでの経緯・背景

◎これまでの経緯・背景

昭和45年に建てられた蕨市立病院は、耐震性能が低いことが指摘されており、施設の耐震化は重要な課題の一つです。また、施設の設備等についても、機能劣化や老朽化が進み、近年の医療ニーズや環境等に対応することも難しくなっています。こうした中、施設整備について検討を進めてきましたが、既存施設の耐震化や現地での建替えは難しいことから、移転での建替えが適切であるとの判断をし、西公民館と松原会館を含む一体的な敷地を移転候補地とする移転建替え方針案を示し、審議会でのご審議をいただきながら、移転建替えを正式決定するに至りました。



蕨市立病院の外観



外来の総合受付



病棟(2階産科病棟)

基本構想・基本計画について ―位置付け―

◎基本構想・基本計画の位置付け

基本構想・基本計画は、蕨市立病院整備の基本的な考え方や新病院に求められる役割と機能、建設の規模、事業費の考え方、スケジュールなどについて、具体的な検討や整理を行うもので、今後の基本設計、実施設計につながる、新病院建設の骨格となるものです。

どのような病院を目指すのか

○蕨市立病院の状況を把握し、新病院整備の基本的な考え方など「骨格」となるものを示します。

- ▷ 公立病院として求められる医療
- ▷ 南部保健医療圏における市立病院の役割
- ▷ どのような診療体制とするのか

○新病院の規模や各部門の整備など、設計の諸条件となる考え方をまとめます。



基本設計	基本的なレイアウトや外部デザイン、構造、工法、材料、設備など設計図の基本となる条件を設定します
実施設計	基本設計に基づき、工事に必要な設計図を作成し、工事費を算出します
建設工事	設計図に基づき、新病院を建設します

当院を取り巻く環境 ― 当院の診療状況 ―

外来

外来診療 月～土曜日 内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科

月、火、木、金曜日 皮膚科

月～土曜日 人工透析

週1回(専門外来) 呼吸器、消化器、糖尿、泌尿器、乳腺外科

患者数 年間延べ105,912人(令和4年度) 1日当たりの患者数は350～400人

救急

救急車受入れ件数 年間890件(令和4年度)

小児救急(時間外の小児救急を当院と戸田中央総合病院で担当) 年間526件(令和4年度)

輪番制(時間外を当院と戸田中央総合病院、中島病院、公平病院で担当) 年間575件(令和4年度)

入院

産婦人科病棟(25床)、混合病棟(53床)、内科病棟(52床) 合計130床

患者数 年間延べ27,992人(令和4年度)

当院を取り巻く環境 ― 当院の医療提供体制 ―

体制

常勤医 14人（内科6人、小児科2人、外科1人、整形外科1人、産婦人科3人、眼科1人）

看護師（助産師含む） 76人（外来、病棟、透析、健診センター、地域連携室）

薬剤師 6人（外来・入院の調剤）

理学療法士 5人（外来・入院患者のリハビリ）

臨床検査技師 9人（生理機能検査、検体検査）

管理栄養士 2人（入院患者の給食管理）

放射線技師 5人（レントゲン、CT、MRI）

臨床工学技士 3人（透析管理）

社会福祉士 1人（入院患者の退院支援）

視能訓練士 1人（視機能の検査 眼科）

※事務局・会計年度職員を除く

※医療事務（受付等）、清掃、給食調理、警備・当直業務は委託

令和6年4月1日現在

当院を取り巻く環境 ―市内及び南部医療圏の医療機関―

市内の医療機関

病院 3 診療科目

内科	胃腸内科	循環器内科	大腸・肛門内科	小児科	消化器内科	呼吸器内科	ペインクリニック内科	人工透析内科
3	1	2	1	2	2	1	1	1
外科	整形外科	眼科	耳鼻咽喉科	産婦人科	放射線科	内視鏡内科	リハビリテーション科	
2	2	1	1	1	1	1	1	

(令和6年2月29日現在)

クリニック等 40 診療科目

内科	糖尿病	循環器	内科(訪問)	呼吸器	消化器	腎臓内科	泌尿器	透析	胃腸科
21	2	4	1	2	2	2	2	1	3
外科	皮膚科	美容外科	皮膚科(訪問)	アレルギー科	脳	放射線科	形成外科	性病科	肛門
2	6	1	1	6	1	2	1	1	2
整形外科	リハビリ	リウマチ	小児科	婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	精神科	心療内科	神経科
8	7	3	10	1	5	4	1	1	2

(令和6年2月29日現在)

南部保健医療圏での医療機関数

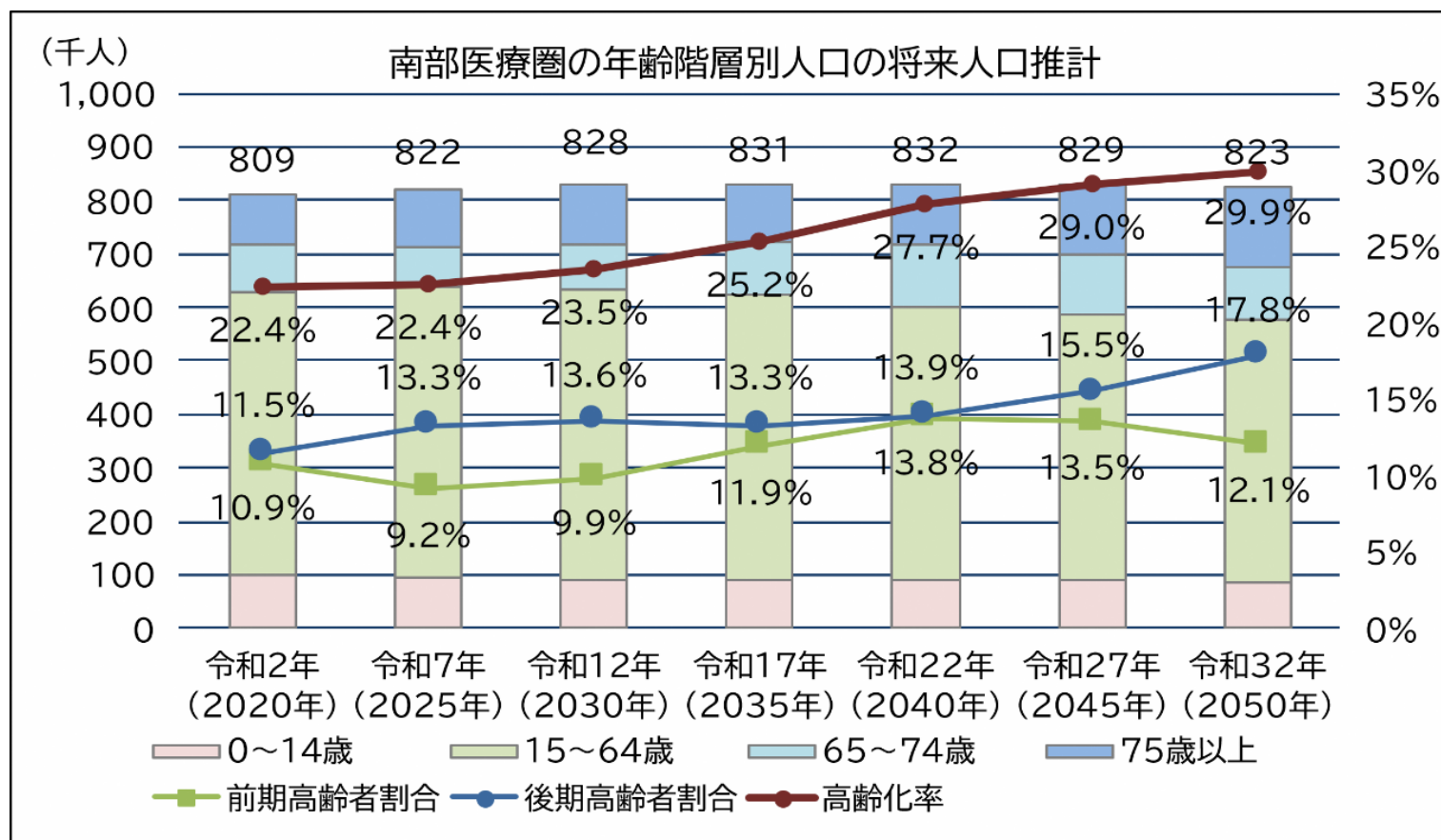
	医療機関数(有床診療所含む)
蕨市	3
川口市	30
戸田市	6

	病床規模					合計
	400床以上	200床以上	100床以上	20～99床	19床以下	
蕨市			1	2		3
川口市	2	2	9	6	11	30
戸田市	1	1	1	2	1	6

将来の需要の変化 ―南部保健医療圏の人口推計―

南部保健医療圏の人口推計

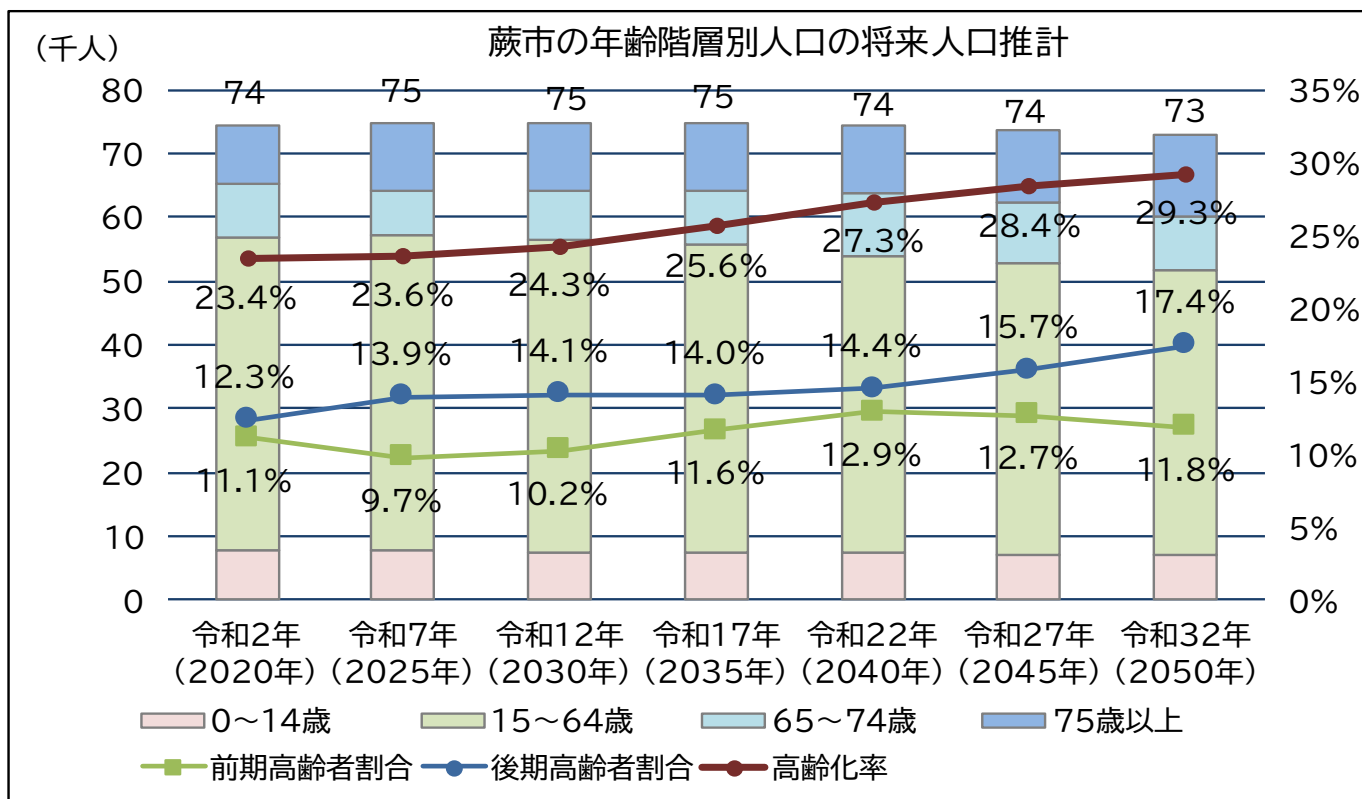
令和32年までの推計において、ほぼ横ばいからやや微増していくことが予測されています。また、高齢化率は、令和2年の22.4%から令和32年においては29.9%まで上昇することが予測されています。



将来の需要の変化 ―蕨市の人口推計―

蕨市の人口推計

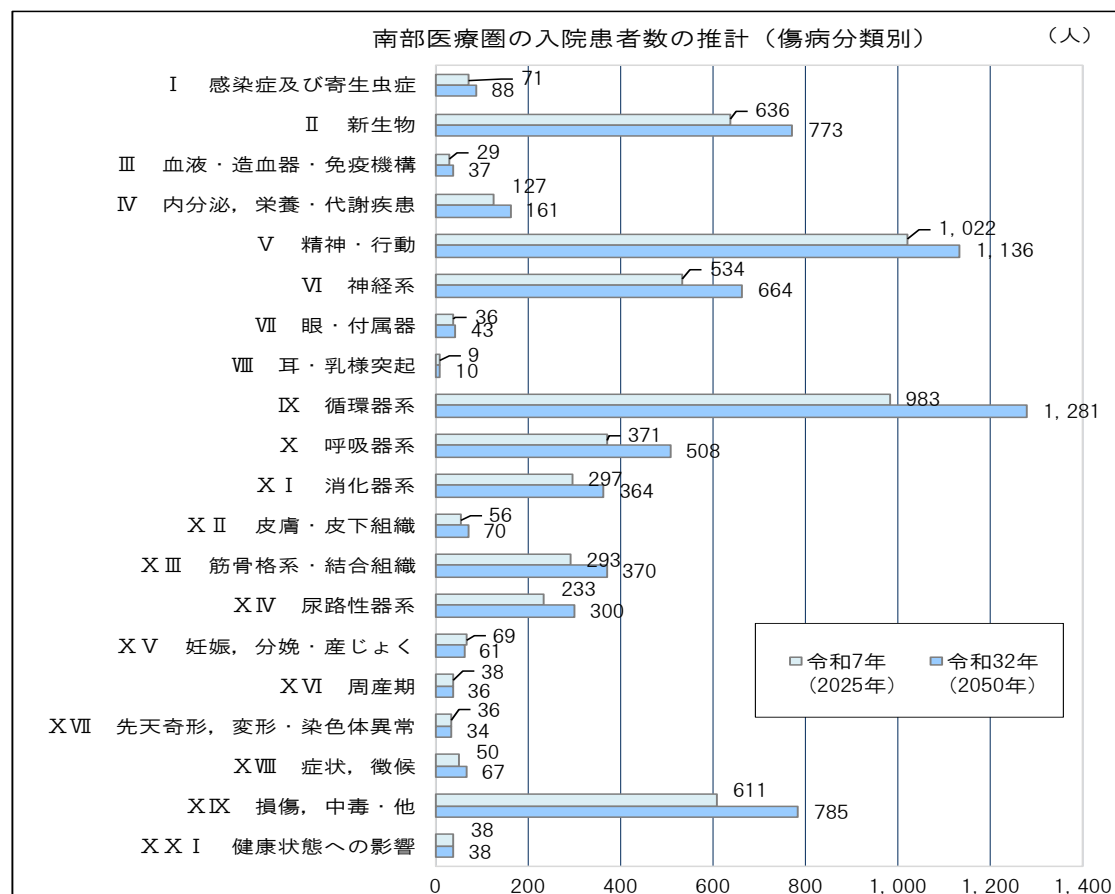
令和32年までにおいてほぼ横ばいで推移していくことが予測されています。高齢化率は令和2年の23.4%から令和32年には29.3%まで上昇することが予測されており、後期高齢者の割合も令和32年には17.4%に上昇していくことが予測されています。



将来の需要の変化 ―南部保健医療圏の入院の疾病分類―

南部保健医療圏の入院の疾病分類

傷病分類別で令和7年と令和32年の入院患者の推計を比較すると、新生物、精神・行動、循環器系、呼吸器系、損傷・中毒・他の疾患が増加していくことが見込まれます。



出典：国立社会保障・人口問題研究所、患者調査 都道府県別令和2年

蕨市立病院 市民アンケート調査の結果

蕨市立病院アンケート 対象：無作為抽出の市民2000人(18歳以上・地区別・男女別)

期間：令和6年4月2日～23日

回答率：49.3%

設問：①医療機関の利用状況(満足な点、不満な点)

②蕨市立病院の利用状況(満足な点、不満な点)

③蕨市立病院の建替えに望むこと (自由意見を含む)



別紙資料1-2を参照

新病院整備の基本的な考え方

◎新病院の基本的な考え方(基本理念、基本方針、新病院が担うべき役割と診療体制)

基本理念

- ◆ 市民の健康の維持増進を第一とし、地域住民に愛される病院となることを目指します
- ◆ 患者及び家族の皆様が満足できるよう、安全で質の高い医療サービスの提供を目指します

「蕨市立病院将来構想」で掲げる基本理念を踏襲

基本方針

基本理念に基づき、新病院をどのような病院としていくのかの基本的な方向性について示します。

例) 急性期の充実、地域医療連携の充実、地域包括ケアシステムへの対応、小児、周産期医療の提供等

新病院が担うべき役割と診療体制

5疾病6事業に対する対応、診療科、必要病床数

◎施設計画(建設地について、施設の必要規模、施設の必要要素、部門別の考え方)

建設地について

西公民館と松原会館を含む一体的な敷地についての概要と当該敷地における建築条件等の概要を示します

施設の必要規模

新病院の基本的な考え方に基づく機能等を満たすための必要規模について、建築条件等を踏まえつつ検討し示します

施設の必要要素

施設整備に当たり考慮する必要要素等を示します。例)環境配慮、バリアフリー対応、災害時対応

部門別の考え方

各部門(外来部門、病棟部門、事務部門等)の施設整備の考え方について示します

◎事業費と事業方式 について(概算事業費の考え方について、事業方式とスケジュール)

概算事業費の考え方

概算事業費についての考え方を示します

事業方式とスケジュール

事業方式とスケジュールについての考え方を示します